

「スペイン語の世界・世界のスペイン語」

外国語学部スペイン語圏専攻 堀田英夫

1. スペイン語の世界

1) 挨拶

Hola. [オラ] (英語 **Hello**) というのは、一番簡単な挨拶言葉である。スペイン語の発音は、日本語に似ていて、[] 内に書いたカタカナを発音してもらえば通じる。綴り字もほぼローマ字のように読めばよいものが大部分であるが、この言葉の **h** のように日本語のローマ字と異なるものも当然ある。**H** は、綴り字としては存在するが発音上はまったく発音されない。従って、英語の綴りと意味が同じ語: **hotel** [オテル], **hospital** [オスピタル] もスペイン語では、**h** の部分が発音されない。

一日で始めてあったときに交わす挨拶「おはよう/こんにちは/こんばんは」に相当する言葉は、スペイン語でも3つある。

Buenos días. [ブエノス・ディ阿斯] (英語 **Good morning / day.**) おはよう/こんにちは

Buenas tardes. [ブエナス・タルデス] (英語 **Good afternoon.**) こんにちは/こんばんは

Buenas noches. [ブエナス・ノーチェス] (英語 **Good evening / night.**) こんばんは/おやすみなさい

スペイン語の挨拶一つに複数の日本語訳をつけ、同じ日本語訳が複数のスペイン語挨拶の訳としてついているのには理由がある。医学や物理、数学などで厳密に定義された専門用語は、言語が違い語形が異なっても同じ概念を意味するものがあるだろうが、日常使っている語や表現については、ある言語の語の意味する範囲と、別の言語の語の意味する範囲がぴったりと一致することはない。その一つの例ともいえるこれらの挨拶表現は、一日のいつの時間に使うかがスペイン語と日本語ではぴたりとは一致しない。**"Buenos días."** は一日の昼食を食べる時間までに会った時に交わす挨拶なのだが、スペイン語圏の昼食は、午後2時から4時が普通なので、日本語の朝に使う「おはよう」と時間がずれてくる。また夕食時間が遅いので、ほぼ夕食までの挨拶である**"Buenas tardes."** も、日本語では「こんばんは」と挨拶したくなる時間まで使われる。

2) 男性と女性

この3つの挨拶で一つ目の語形が **buenos** と **buenas** という語尾が変わっている。これは、同じ「良い」という意味の形容詞で、その後ろの語が男性名詞と女性名詞の違いにより語尾が異なっている。共通している語尾の **s** は複数形を表す。スペイン語

では英語と違い、名詞が複数形なら形容詞も複数形にする。**Días** は、**día** {男性名詞}[ディア] (英語 **day**) 「日」の複数形で、**tardes** は、女性名詞の **tarde** {女性名詞}[タルデ] (英語 **afternoon**) 「午後、夕方。スペインでは午後 3 時から 9 時まで」の、**noches** は同じく女性名詞 **noche** {女性名詞}[ノーチェ] (英語 **night**) 「夜」の複数形である。「日」が男性で「午後」「夜」が女性というように、すべての名詞が、男性名詞か女性名詞のいずれかに分類されている。**Sol**[ソル]「太陽」、**río**[リオ]「川」、**bosque**[ボスケ]「森」が男性名詞で、**tierra**[ティエラ]「土地」、**luna**[ルナ]「月」、**playa**[プラヤ]「浜辺」が女性名詞である。**Bueno** のように **o** で終わる形容詞は、女性名詞を修飾するとき、語尾を **a** にする。

Puerto Rico プエルトリコ (カリブ海にある島でアメリカ合衆国の自由連合州、公用語がスペイン語と英語)
Costa Rica コスタリカ (中米にある国、軍隊を持たないことを憲法で規定している)

この二つの地名にも名詞の性で語尾を変える形容詞 **rico**, **-ca** {形容詞}[リコ/リカ] (英語 **rich**) 「豊かな」が含まれている。もう一つの語 **puerto** [プエルト] (英語 **port**) 「港」と **costa** [コスタ] (英語 **coast**) 「海岸」が、男性名詞か女性名詞か¹は、**rico** か **rica** のどちらが使われているかによってすぐわかる。

人を表す語にももちろん男性名詞か女性名詞かの区別がある。

amigo {男性名詞}[アミーゴ] (男) 友だち、**amiga** {女性名詞}[アミーガ] 女友だち
padre {男性名詞}[パドレ] 父、**madre** {女性名詞}[マドレ] 母

だからスペイン語で「今晚、友だちの家に泊まってきます。」と言う時、友だちが同性か異性かも言うことになってしまう。男性を表す語が男性名詞で、女性を表す語が女性名詞だが、人を表す語で男性名詞しかない語、あるいは女性名詞しかない語もある。

miembro {男性名詞}[ミエンブロ] 会員、**persona** {女性名詞}[ペルソナ] 人

María es miembro del club de natación. 「マリア(女性の名)はスイミングクラブの会員だ。」 (中級スペイン文法 p.43) <「会員」は男性名詞>

Juan es una persona muy simpática. 「フアン(男性の名)はとても感じのいい人だ。」 (中級スペイン文法 p.43) <**persona** 「人物」は女性名詞で、**simpático**, **-ca** 「感じのいい」という形容詞は女性形が使われている。>

動物を表す語では、オスを表す語が男性名詞で、メスを表す語が女性名詞である。

gato {男性名詞}[ガート] (雄) 猫、**gata** {女性名詞}[ガータ] 雌猫
toro {男性名詞}[トロ] 雄牛、**vaca** {女性名詞}[バカ] 雌牛

では、目の前を歩いている猫を見て「ほらごらん、猫が通っていく！」と言いたいとき、雄か雌かを確認してからでないと発言できないのだろうか？もちろんそんなことはなく、動物名で男女両方の名詞があっても、雌雄区別しないで言う場合、男性で言う語(gato「猫」、zorro「狐」など)と女性で言う語(paloma「鳩」、vaca「牛」など)がある。動物名でどちらかの性の名詞しかない語もある:gorila{男性名詞}「ゴリラ」、serpiente{女性名詞}「蛇」などで、雌雄を区別して表現する必要がある場合は、「雄」macho[マチョ]、「雌」hembra[エンブラ]を後ろにつける:la serpiente macho「雄の蛇」、la serpiente hembra「雌の蛇」

3) 単数と複数

英語と同じく、スペイン語で数えられることのできるものを表す名詞は、単数形あるいは複数形で使われる。「複数形は2つ以上の『個』に用いられる。」(中級スペイン文法 p.49)一つのものや数えられないものは「単数形」で表現する。では、ゼロ **cero**[セロ]のものは単数形か、複数形のどちらだろうか。

a las cero horas「零時に」(中級スペイン文法p.222) horas=>hora「時(間)」の複数形。

La conferencia se suspendió al comprobar que había cero asistentes. (Dic.Clave: cero) 講演会は出席者がゼロと確認され延期された。asistentes=>asistente「出席者」の複数形。

La congelación del agua se produce a cero grados centígrados. (Dic.Clave: congelación) 水が凍るのは摂氏ゼロ度におこる。grados=>grado「度」の複数形>の例を見ると、ゼロのものは、複数形で表すことがわかる。

よくつかう表現で「ありがとう」も複数形である。先に見た“Buenos días”などの挨拶も複数形である。他に “Recuerdos a tu padre.”「お父さんによろしく」、 “¡Felicidades!”「おめでとう！」も複数形である。これらがなぜ複数形なのか理由はわからない。

Gracias.[グラシアス] ありがとう{女性名詞、複数形}

<= gracia{女性名詞}[グラシア]恩恵、恩寵

Gracias por tu regalo.[グラシアス・ポル・トゥ・レガロ] プレゼントありがとう。

Por favor.[ポル・ファボール] どうぞ。どうか。

<= favor{男性名詞}[ファボール] 親切、好意

複数形についてさらに考えさせることがある。Padre[パドレ]は「父親」、では、padres[パドレス]{複数形}は、どんな意味だろうか。Amigos [アミーゴス] がamigo「男友達」の複数形、amigas [アミーガス] がamiga「女友達」の複数形である。では、amigoとamigaの混じった集団を言うにはどの形を使うのだろうか²。

数えられる名詞が複数形になるのはわかるが、そのものの物質としては数えられない名詞も複数形で使われることがある。

Dos vinos, por favor.[ドス・ビノス・ポル・ファボール] ワイン 2 杯下さい。

Agua [アグワ]「水」、vino [ビーノ]「ワイン」などを量や種類を気にしないで意味する時は複数形にしない。

La producción de vino en España alcanza la tercera posición en el ranking mundial³. 「スペインにおけるワイン生産は世界ランキングの 3 位に達している。」

しかしこれを複数形で使うときは、上の例のようにレストランなどで飲み物などを注文するときは一人前ごとに数えるので複数形にもなる。また、種類を話題にするときも複数形になる。

Destacan los vinos de mesa de la Rioja, de la Rivera del Duero, de La Mancha y otros muchos⁴. 「リオハ、リベラ・デル・ドゥエロ、ラ・マンチャ他、多くのテーブル・ワインが著名である。」

英語を学んだときに対になっているものは複数形にすると習った。スペイン語でも同様の語がある。Zapatos {複数形}[サパートス]「(一足揃いの)靴」、zapato {単数形}[サパート]「靴(の片方)」しかし対のもの(pantalones {複数形}[パンタロネス]「ズボン」)でも複数形になったりならなかったり、対でないように見える(espalda {単数形}[エスパルダ]「背中」)のに複数形になることがある語がある。

Carlitos lleva pantalones cortos.(Sopena: pantalón) 「カルリートスは半ズボンをはいている。」

El pantalón me anda justo. 「そのズボンは私にちょうど良い。」

Pantalón の語源がイタリアの道化役者の名前なので昔の単数形での使い方が残っていると考えられる。

Lleva a un herido a las espaldas. 「彼は負傷者を背負っている。」(現代ス:espalda)

Me duele la espalda. 「私は腰(背中)が痛い/肩がこっている。」(現代ス:espalda)

Espalda「背中」が複数形になることがあるのは、語源が後期ラテン語 spathula「肩甲骨」なので、もともとの対のものとして複数形使用が残っていると思われる。

4) 名詞と形容詞の語順

先にあげた例で、「形容詞＋名詞」buenos días「良い日々」と「名詞＋形容詞」puerto rico「豊かな港」の語順のものがあつた。

La blanca nieve cubre la montaña. 白い雪が山を覆っている。

El gato blanco maúlla. 白い猫がなく。(Sánchez&Sarmiento p.85)

一つ目の例は、形容詞＋名詞(blanca「白い」＋nieve「雪」)、二つ目の例は、名詞＋形容詞(gato「猫」＋blanco「白い」)である。どんな場合は形容詞＋名詞で、どんな場合は名詞＋形容詞なのだろうか。ヒントは、雪が白いのは普通で、赤い雪、青い雪と区別して白い雪と言っているわけではない。あえて「白い雪」と表現するのは、その白さに感動し、自分が感じたこととして「白い」ということを表している。一方、猫は、黒猫、三毛猫、茶色の猫がいて、それらと区別して白い猫といっているということにある。

Nueva casa[ヌエバ・カサ] {形容詞＋名詞}とcasa nueva[カサ・ヌエバ]{名詞＋

形容詞}とではどんな意味の違いがあるのだろうか⁵。<nuevo, -va [ヌエボ/ヌエバ]
「新しい」 casa [カサ]「家」>

5) 動詞と二種類の話し相手

スペイン語の動詞は、ヨーロッパの他の言語と同じく、一つの時制(と法)に対して、6つの活用形があり、主語が、話し手(1人称)、話し相手(2人称)、第三者(3人称)の単数のどれか、または、話し手を含む複数か、話し相手とその他の複数か、話し手も話し相手も含まない第三者の複数かによって形が決まっている。「ご機嫌いかがですか?/お元気ですか?」と挨拶する時と、「元気です」と応えるときでは、同じ動詞でも形が異なる。文の基本は、「主語+動詞」で、動詞は主語の人称・数に合わせて語形を変える。逆に語形で主語がわかるので、スペイン語では「私」「私たち」「君」「君たち」「彼」「彼女」の代名詞の主語は言わないのが普通である。

¿Cómo estás? [コモ・エスタス] (英語 How are you?) お元気?
¿Cómo está usted? [コモ・エスタ・ウステ] (英語 How are you?) お元気ですか。
Estoy bien, gracias. [エストイ・ビエン・グラシアス] (英語 I am fine, thank you.)
元気です。ありがとう。

<cómo [コモ]{疑問詞}(英語 how)「どのように」>

「ご機嫌いかがですか?」とたずねるのは、「あなたはどんな機嫌/加減ですか?」とたずねるので、主語は話し相手(2人称単数 **estás** あるいは3人称単数 **está**)である。「元気です。」とこたえるときは、「私は元気な状態です。」と応えるので、主語は話し手(1人称単数 **estoy**)である。

2人称単数としての動詞形を使う話し相手と3人称単数の動詞形を使う話し相手がある。英語では **you** の一語であるが、スペイン語では **tú** [トゥ]「あなた、君」を使う話し相手と **usted** [ウステ]「あなた様」を使う話し相手を区別する。**Tú** [トゥ]{代名詞}「あなた、君」は、親しい人に対して主語として使い、動詞形を2人称にする。目的語 **te**「君を」「君に」、前置詞の後ろで使う形 **ti**、所有形容詞 **tu, tuyo**「君の」がある。**Usted** [ウステ]{代名詞}「あなた様」は、話し相手が目上の敬意を表すべき人や親しくない人の場合に使われ、文法的に3人称として扱われ動詞を3人称にする。目的語 **lo, la, le**、所有形容詞 **su, suyo**は3人称「彼」「彼女」と同じ形である。

estar [エスタール]{動詞}(英語 **be**)の直説法現在形の活用:

主語が	単数	複数
1人称(話し手)	estoy [エストイ]	estamos [エスタモス]
2人称(話し相手)	estás [エスタス]	estáis [エスタイス]
3人称(第3者)	está [エスタ]	están [エスタン]

親しい人の場合は**tú** [トゥ]、目上の敬意を表すべき人や親しくない人の場合に

usted [ウステ]を使う。では、親しくもないが敬意を表すべきでもない相手であるスリや泥棒にはtú [トゥ]、usted [ウステ]のどちらを使うのだろうか？ また、親しみを感じ、かつ敬意を表すべき神様にはtú [トゥ]、usted [ウステ]のどちらを使うのだろうか⁶？

2. 世界のスペイン語

1) スペイン語を話す人は世界で何人ぐらいいるのだろうか？

話者数統計は、厳密なものではない。およその数として母語として話す人が約4億人という統計がある。

	スペイン語圏	スペイン語圏外	計
母語話者	3 5946 1000	4052 0000	3 9998 1000
限定的な話者	186 0000	2313 8000	2499 8000
学習者			1400 0000
スペイン語使用可能者			4 3897 9000

Moreno & Otero(2007:105)

別の統計で、3億2千万人としていて、他のなじみのある外国語の母語話者数と比べるとスペイン語は、中国語に次いで世界第2位の位置にある。

言語名 (なじみある外国語のみ)	母語話者数
中国語(標準語)	8 7301 4298
スペイン語	3 2229 9171
英語	3 0935 2280
ロシア語	1 4503 1551
日本語	1 2243 3899
ドイツ語	9539 2978
フランス語	6485 8311

<http://www.ethnologue.com/> (2008/6/23参照)

2) スペイン語圏

スペイン語を公用語としている国々を含む日常的にスペイン語を使用している地域をスペイン語圏と言う。スペイン語はスペイン一国のみの言語ではない。スペインを公用語としている国々の中で、メキシコとコロンビアは、スペイン語話者人口がスペインよりも多い。スペイン以外の国々が文化的、経済的な発展をとげスペイン語の威信を高め、世界中への普及に貢献していることも

あり、スペイン語の綴り字や標準を定めるのに、現代では、スペイン一国が決めるのではなく、各国のアカデミーが連合して決めるようになっている。

メキシコ	9609 7000
コロンビア	4112 9000
スペイン	4002 6000
アルゼンチン	3606 0000
ベネズエラ	2460 1000
ペルー	2264 8000
チリ	1501 5000
エクアドル	1169 2000
キューバ	1111 6000
グアテマラ	970 8000
ドミニカ共和国	844 9000
ボリビア	727 9000
エルサルバドル	673 6000
ホンジュラス	602 0000
ニカラグア	498 8000
コスタリカ	377 9000
プエルトリコ	376 2000
パラグアイ	358 9000
ウルグアイ	320 5000
パナマ	264 4000
赤道ギネア	91 8000
計	3 5946 1000

母語話者・母語なみ話者数 Moreno & Otero(2007:35)

この表には出ていないが、アメリカ合衆国には、スペイン語圏出身のヒスパニック系と言われる人たちが、全人口の15%、約4500万人(U.S. Census Bureau, 2007)いて、その多くがスペイン語を使う。地名にも多くのスペイン語が使われている: Nevada「雪に覆われた」、Sacramento「秘蹟」、Los Ángeles「天使」、Santa Fe「聖なる信仰」、Colorado「赤い」、Rio Grande「大きい川」など。

スペイン語は、ヨーロッパのスペイン、米州の18カ国、アフリカの赤道ギネアの計21カ国で公用語となっているので、国際連合など、多くの国際機関や国際会議で公用語の一つに数えられている。これは15世紀末から16世紀以降の大航海時代に、スペイン人が大西洋を渡って先住民を征服し、植民した結果である。

3) アジアにおけるスペイン語の足跡

我々の身近のアジアにもその足跡が見られる。16世紀にマゼランが世界一周した際、南太

平洋の島々とフィリピン諸島に来て、スペイン領とした。スペイン人による統治時代にスペイン語が各地に残ったのである。フィリピン共和国(Philippines)の国名もスペイン国王Felipe [フェリーペ]2世の名前にちなんで命名された。このフィリピンの地名や観光スポットにもスペイン語のものがある。

- 世界遺産「フィリピン・コルディリエーラの棚田群 Rice Terraces of the Philippine Cordilleras」の名称: cordillera{女性名詞}「山脈」
- 世界遺産「プエルト・プリンセサ地底河川国立公園 Puerto-Princesa Subterranean River National Park」の名称: puerto{男性名詞}「港」、princesa{女性名詞}「王女」

フィリピン政府観光省ホームページの「マニラの見どころ」として紹介されている8箇所のうち、

- エルミタ地区 <= ermita 「(人里離れた)教会、礼拝堂」
- イントラムロス <= intramuros 「城壁の中で、市内で」
- カーサ・マニラ博物館 <= casa 「家」

<http://www.premium-philippines.com/> (2009年9月13日参照)

フィリピンの言語であるフィリピン語(タガログ語を元にして整備された)には多くのスペイン語からの借用語が含まれている。数詞はスペイン語のままで通じる。

グアム島にもスペイン語地名がある。

- サンタローザ山 Mt. Santa Rosa <= santa 「聖なる」、rosa 「バラ」
- サン・アントニオ橋 < San Antonio 「聖アントニウス(聖人の名)」

グアム政府観光局 <http://www.visitguam.jp/> (2009年9月13日参照)

- ソレダット砦 Fort Soledad <= soledad 「孤独」
- スペイン広場 Plaza De Espana <= Plaza 「広場」、de 「～の」、España 「スペイン」
- ココス島 Cocos Island <= coco 「ココナツ、ヤシの実」

チャモロ語(グアム島を含むマリアナ諸島の土着の言語、英語と並ぶグアムと北マリアナ連邦の公用語)には多くのスペイン語からの借用語が含まれている。チャモロ語の会話のテープを聴くと最初の方は、スペイン語の挨拶がいくつか聞こえてくる。

4) 日本におけるスペイン語

日本も例外ではない。南蛮人、すなわちポルトガル人とスペイン人との交易により多くの文物がその名称と共に日本と日本語に入ってきた。スペイン語とポルトガル語は似ているので、どちらから日本語になったのか区別し難い語が多い。「西」でスペイン(西班牙)語を、「葡」でポルトガル(葡萄牙)語を示す。

マント < (西)(葡) manto、ビロード < (西) velludo, (葡) veludo、メリアス < (西) medias 「靴下」、(葡) meias、合羽(カッパ) < (西)(葡) capa 「ケープ」、ボタン < (西) botón, (葡) botão、パン < (西) pan, (葡) pão、天麩羅 < (西) témpora 「精進期間」、(葡) têmporas、カステラ < (西) Castilla, (葡) (pão de) Castela 「カスティージャのパン」、歌留多(カルタ) < (西)(葡) carta 「手紙、カード」、ビードロ < (西) vidrio 「ガラス」、(葡) vidro、煙草(タバコ) < (西)(葡) tabaco、シャボン < (西) jabón 「石鹸」、

(葡) **sabão**、スベタ < (西) (葡) **espada** 「剣、(トランプの)スペード」

現在の国際的な交流によっても多くのスペイン語が我々の身近になっている。

エルニーニョ現象 < **el Niño** 幼子イエス、リアス式海岸 < **rías** {複数形} <= **ría** 溺谷、河口の広がり、カルデラ < **caldera** 大釜、ナタデココ < **nata** クリーム、de~の、**coco** ココナツ、タコス < **tacos**(メキシコ料理)、パエリャ < **paella**(スペイン料理)、タンゴ < **tango**、フラメンコ < **flamenco**、フォルクローレ < **folclore**、サルサ < **salsa**、トマト < **tomate**、チョコレート < **chocolate**、コヨーテ < **coyote**、プラザ < **plaza**[プラサ]「広場」、ゲリラ < **guerrilla**「小さい戦争」、(政界の)ドン < **don**「男性の名の前につける称号」(ドン・キホーテ、ドン・フアンの「ドン」です。)

3. おわりに

外国語というと英語がまず思い浮かぶことが多いと思う。日本がかかわる国際的な舞台で英語が使われることが多いのも確かである。しかし世界を見回してもらうと、英語以外にも多くの言語が使われていて、それぞれその言語を話す人たちの気持ちや考えが含まれ、歴史が営まれ、様々な文化も育まれている。英語以外の言語にも目を向け、学習してもらえば、世界を複眼で見ることができるようになる。

英語以外で学習する言語を選ぶ際に、スペイン語も有力な候補の一つである。上で見てきたように、使用地域の広さ、母語話者の多さ、文化の多様さ、さらに歴史的にアジアや日本とも近い関係を持ってきたという理由がある。ぜひ一度スペイン語に接して欲しい。

4. 参考書

スペイン語の学習のための辞書と参考書を紹介しておく。

1) 西和辞典(発行年月日の新しいものからの順番。電子辞書搭載の他は 2000 年以降発行)

- 高垣敏博監修『西和中辞典』〔第 2 版〕小学館 (2007) : 『西和中辞典』(1990) の改訂版。スペイン語-日本語では収録語数最大: 約 8 万語。語源記載の語あり。
- 上田博人、Carlos Rubio 編『プエルタ新スペイン語辞典』研究社 (2006) : 『新スペイン語辞典』(1992) の改訂版。見出語約 4 万 2 千語。例文、挿絵、写真豊富。
- 原誠他編『クラウン西和辞典』三省堂(2005) : 見出語約 4 万 5 千語。類義語、反意語の記載の語あり。
- 宮城昇、山田善郎監修『現代スペイン語辞典』(改訂版) 白水社(1999): 見出語 4 万 6,000 語。多くの電子辞書に収録されている。

2) 和西辞典

- Carlos Rubio 他編『クラウン和西辞典』三省堂(2005): 見出し語約 3 万語。語

によって地域差が記載してある。

- 有本紀明他編『和西辞典』(改訂版) 白水社(2001): 多くの電子辞書に収録されている。

3) 小型辞典 (西和に和西(索引)が付いている)

- 宮本博司編『スペイン語ミニ辞典』[改訂版]白水社(2003): 西和見出語 1 万 5,350 語、和西 4,700 語。ジャンル別図解語彙集 4,500 語。
- 高垣敏博他編『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』小学館(2003): 西和約 4 万 5 千語、表現集付。
- 三好準之助著『簡約スペイン語辞典』大学書林(2000): 見出し語約 3 万 3 千。
- 鼓直他編『プログレッシブスペイン語辞典』(第 2 版) 小学館(2000) 収録語数 2 万 5 千語。ミニ和西 4,500 語や旅行会話、文法解説。

4) 入門独習書

- 福嶋教隆著『ニューエクスプレス スペイン語』《CD 付》白水社

5) 文法書

- 山田善郎監修『中級スペイン文法』白水社

6) スペイン語についての読み物

- 福嶋教隆(2004)『スペイン語の贈り物』現代書館
- 山田善郎監修(1996)『スペインの言語』同朋社出版

7) 堀田が関わったもの (『西和中辞典』小学館、『現代スペイン語辞典』白水社)

- 寺崎英樹他編(1999)『スペイン語の世界』世界思想社
- 川成洋・坂東省次編(2005)『南スペイン・アンダルシアの風景』丸善ブックス
- 堀田英夫のホームページ <http://www.for.aichi-pu.ac.jp/~hotta-hi/>
(スペイン語日本語語彙集、初級スペイン語テキスト解説、スペイン語問題集解説)

¹ Puerto「港」は *rico* と結びついているので男性名詞、*costa*「海岸」は *rica* が付いているので女性名詞。

² *Padres* は、「父親達」を意味することもあるが、「両親」の意味である。女性名詞の複数形は女性名詞のみの集合であるが、男性名詞の複数形には女性名詞が混じっていても良い。

³ Carmen Mora(1995)*España, ayer y hoy*, SGEL, p.9 の文を一部省略。

⁴ *ibíd.*

⁵ 「形容詞＋名詞」の語順は、主観的な表現をしたいとき、「名詞＋形容詞」は客観的な表現をしたいときという説明ができる。「白い雪」のように話し手の感じた様子を表現するときには「形容詞＋名詞」の語順 *blanca nieve* と表現し、別の色の猫と区別して「白い猫」と表現したいときには「名詞＋形容詞」*gato blanco* と表現していると考えられる。「新しい」ということも、自分にとって新しい場合と、客観的に新しい場合とがある。それで「形容詞＋名詞」*nueva casa* は自分にとって「新しい家」すなわち「引越し先の今度の家」で中古住宅でもこのように表現することができるのに対して、「名詞＋形容詞」*casa nueva* は、客観的に「新しい家」で、新築の家を意味する場合が普通である。ただし他の語が前や後ろにくることで、必ずしもこの説明に合わない用例もある。

⁶ 親しい人に対して使う *tú* は、歴史的には目上の人から目下の人に対して使っていて、ぞんざいな口の利き方、あるいは言葉による攻撃的な使い方もある。神様や聖人に対しては、スペイン語圏で多いカトリックでは、伝統的にラテン語を使ったお祈りがあり、ラテン語の *tu* を使う伝統で、スペイン語でも神様や聖人に *tú* を使うという説がある。また自分に近い存在として *tú* を使うとする考え方もある。